野生動物による農作物被害を防ぐには

＜サルの追い払い＞　　NO.11

農作物を害する動物は多種類に及びますが、昼間から堂々と畑を荒らすのはサルくらいでしょう。

サルを見たら追い払えとはよく言われるのですが、何故追い払いが大切なのか考えてみましょう。

☆被害防止技術の種類

＜隔離＞

物理的隔離…いわゆる「柵」によって畑や集落に入らないようにするもの。

心理的隔離…追い払いにより脅かす。または臭いや味などで嫌悪感をもたせることで近づくことを避ける。

＜有害捕獲（駆除）＞

動物が増えたから被害も増えたと考え、動物の数を調整するもの

そもそも何故サルは畑にくるのでしょうか？

答えは非常に簡単で、「エサ」があるからです。ただ、エサになりうる作物をなくすことは非常に困難です。一度、作物の味を覚えたサルは空腹になればエサのある畑に来ようと考えるのはごく自然の流れです。これを食い止めるためには「畑は食べ物があるが居心地が非常に悪い」状態にする必要があります。

この居心地の悪さを作り出すのが追い払いによる脅しで、「人間は怖いものだ」、「作物を食べるために生命を危険にさらすのでは割に合わない」と覚えさせる必要があります。

（被害発生の詳細については資料10を参照して下さい）

☆追い払いの特徴

費用…少（人の労力とロケット花火費用程度）

効果…短期的にはないように見えますが、止めると被害はエスカレートします。

・継続して、また集団で追い払いを行っても完全にサルが来なくなるには日数が必要。

効果がはっきりしないからといって追い払いをやめると？

追い払いだけで被害を皆無にするには多くの労力が必要になります。しかし、もしこれをやめた場合サルの加害は一層ひどくなります。昔は「人影を遠くに見つけただけで山奥に逃げた」群れが「人の家に入り込み食べ物をあさる」「食べ物を持っている人に襲いかかる」群れになってしまうわけです。

自分の集落は補助を受けて立派な電気柵を作ったから追い払いは不用だと考えているのも間違いです。電気柵はある程度は侵入されてもやむを得ないものとして作られていますから、侵入された場合は追い払う必要があります。これを怠ると、柵の弱い部分からサルは侵入する習慣が付き、柵の効果は次第に低下します。柵は侵入されにくく作られているため、一度入ると逃げにくく、追い払うと容易に恐怖心を植え付けることが可能です。追い払いはどのような技術を使うにせよ、必ず必要になる一手間であることを忘れてはいけません。